

# 令和4年度 地域医療体験セミナー



令和4年11月28日(月)、寒河江市立病院様の御協力を頂きながら、令和元年度以来3年ぶりとなる地域医療体験セミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染が続く中、看護学科2年の学生4名が参加しました。

当日は、入退院カンファレンスの見学や看護職員との交流などを通じ、地域に密着した医療を展開する寒河江市立病院のリアルを体験することができました。

# 参加者の声

かかりつけの病院が訪問看護も提供していくことで、入院から在宅、在宅から入院への移行が必要になった際、スムーズに情報共有ができ、患者との信頼関係も築きやすくなったと感じた。

コロナ禍では、家族が考えている患者の状態と実際の状態にギャップが出てくると聞き、家族とのやり取りはとても重要で、家族を含めたケアをしていく必要があると学んだ。

寒河江市立病院では、コロナ禍でありながらも患者とその家族が互いの状況を知ることができるような援助も行っていて、地域にすぐく寄り添った看護を行っているのだと学んだ。

寒河江市立病院の病棟内に地域包括ケアについて相談できる場所があり、住民にとって大きな安心に繋がるのではないかと考えた。

入退院専門の役割を持つ看護師や地域の他の医療保健との連携を担う看護師など、より専門性を求められることになると感じた。

寒河江市立病院の入院患者は、80代・90代が多く、高齢化が進んでいることが実感でき、地域に根差す病院の実際を知ることが出来た。

訪問看護は、一人の患者さんに対しコミュニケーションや看護援助を行うところでその方と深く関わることが出来るので、すごくやりがいもあり、魅力的な援助だと感じた。

授業で在宅看護のことについて学んではいたものの、よく実感がわかなかったが、セミナーを通して在宅看護のメリットややりがいについて深く知ることが出来た。

セミナーを通して、将来どこで働くかの選択肢を広げることができ、授業で学んだ知識を深めることに繋がった。